



## 病院図書室における看護師への支援を考える —看護専門学校図書室での経験を振り返って—

川野 真樹

### I. はじめに

京都第二赤十字病院は病床数 639 床、診療科 20 科、地域医療支援病院、がん拠点診療連携病院、臨床研修指定病院、救急告示病院等、各種認定を受けている地域中核急性期病院である。

病院図書室は平成 14 年から平成 18 年に行われた病院の改築と平成 18 年の病院機能評価 (Ver.4) 受診を機に機能整備が行われ、平成 18 年 11 月に専任職員 (司書) が就任することになった。図書室の機能整備が行われる以前は図書室に専任職員はなく、購読雑誌は各部署へ配布され、図書室で中央管理されている状況ではなかったようである。

図書室機能整備が進む中、平成 19 年 5 月から病院職員だけでなく、新たに患者・患者家族を対象とした患者図書室のサービスを始めた。はじめは、一部の医師の利用に限られていたが、整備が進むにつれ、看護師の利用も見られるようになった。患者向けの資料を揃えたこともあり、患者の説明資料を求めて看護師の利用が増加してきている。

医療の高度化・複雑化に伴い、専門的な知識や技術が求められ、EBM (Evidence-Based Medicine)、EBN (Evidence-Based Nursing) の実践が求められ、看護分野において以前に増して文献が必要とされている。看護系大学・大学院が増設されていることもあるが、看護学部からの文献複写依頼の数が増加してきているとする報告もあり<sup>1)</sup>、看護師による図書館 (室) の利用・ニーズが増加してきている。

最近、看護系大学、および大学院が増設されている。しかし、課程別養成機関・1 学年定員の推移を調べると、現状では養成所出身の看護師が多い<sup>2)</sup>。そこで、養成所の図書室の利用状況について、以前勤務していた看護専門学校図書室の利用状況を振り返り、病院図書室での看護職への利用支援について考察を行いたい。

### II. 看護専門学校図書室について

平成 13 年から平成 18 年まで勤務していた A 看護専門学校は准看護科、2 年課程、3 年課程を擁する学生数約 600 名の規模を誇る専門学校であった。図書室は独立して設置され、当時は蔵書数約 15,000 冊、年間購読雑誌 43 タイトルを揃え、パソコンは 2 台設置されていた (内 1 台はカウンター)。貸出冊数は年間約 10,000 冊を超え、活発な利用状況だった (図 1)。一人当たりの貸出冊数と学生数の推移を調べてみると (図 2)、学生による図書室の利用は年々増加している状況だった。前田による看護専門学校図書室調査では調査・回答があった 23 校中、年間学生 1 人あたり 20 冊以上貸出のある図書室が 5 校となっている<sup>3)</sup>ことから、A 看護専門学校図書室は他の看護専門学校図書室と比較しても活発な利用であったと考えられる。

### III. インターネット利用状況

当時、2 年課程 2 年生に対して、文献検索の講義を担当し、文献検索データベースの利用について説明していた。その際、学生のインターネット利用状況や、インターネット検索利用状況について平成 18 年にアンケート調査を行った。

かわの まき：京都第二赤十字病院 図書室

年度別貸出冊数推移

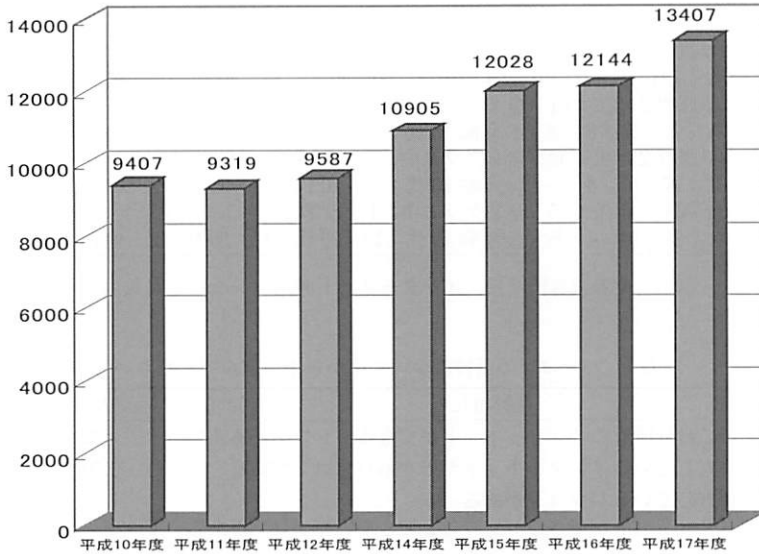


図1 A 看護専門学校図書室年度別貸出冊数推移

年度末在籍者数

年度別1人あたりの貸出冊数推移

1人あたり貸出冊数

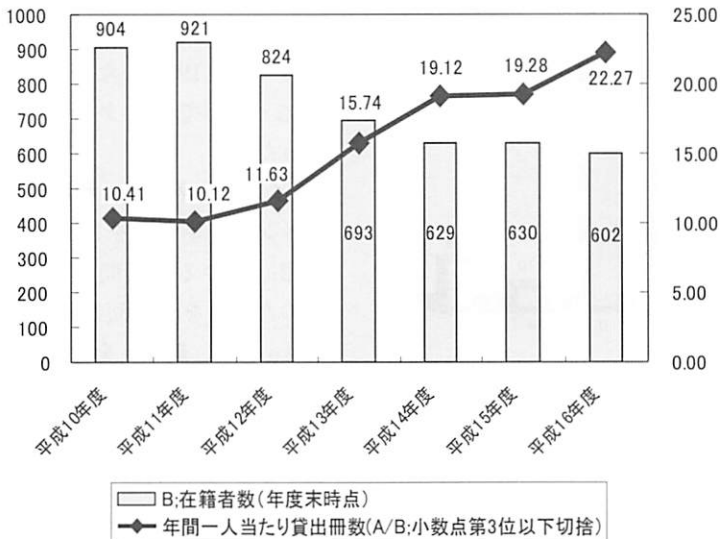


図2 A 看護専門学校図書室年度別1人あたり貸出冊数推移

アンケート対象は講義対象になる2年課程1年生・2年生だけでなく、臨床実習経験があり、情報処理の授業がある3年課程の2年生・3年生に対しても行った。配布・回収は各ホーム

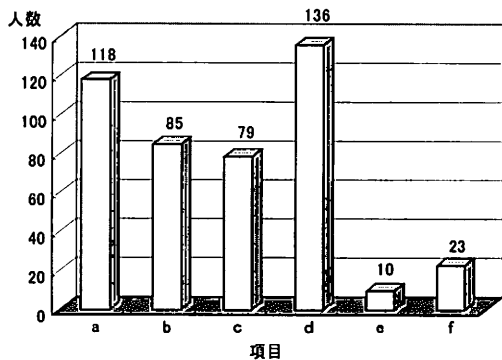
ルーム担任に依頼した。2年課程は全2クラスから、3年課程3年生は2クラス中1クラス、2年生は2クラス中1クラスからの回収(合計230名)ができた(図3)。

・時期	平成 18 年 4 月～5 月
・対象	2 年過程 1 年生、2 年生 3 年過程 2 年生、3 年生
・回答	全回答数：230 2 年課程 1 年生：81 (全 2 クラス) (女：72、男：9 /年齢 10 代：0, 20 代：53, 30 代：27, 40 代：0, 無：1) 2 年課程 2 年生：81 (全 2 クラス) (女：72、男：8、無：1/年齢 10 代：0, 20 代：57, 30 代：21, 40 代：3) 3 年課程 2 年生：32 (全 2 クラス中、1 クラス) (女：27、男：4 /年齢 10 代：15, 20 代：15, 30 代：2, 40 代：0) 3 年課程 3 年生：36 (全 2 クラス中、1 クラス) (女：29、男：4、無：3/年齢 10 代：18, 20 代：12, 30 代：2, 40 代：4)

図 3 A 看護専門学校 インターネット利用アンケート対象内容

表 1 パソコンの所持について次から 1 つ選んでください

選択項目	人数	割合 (%)
a 家または下宿に自分所有のインターネットができるパソコンがある	72	31
b 家に家族で共有しているインターネットができるパソコンがある	70	30
c 家に家族で共有しているパソコンがある そのうちインターネットができるパソコンとできないパソコンがある	9	4
d 家に家族で共有しているパソコンがあるがインターネットができない	36	16
e パソコンを持っていない	43	19



- a 遊び、趣味(オンラインゲーム、チャットなど含む)のため
- b 買い物のため
- c 生活情報を得るため
- d 勉強のため(臨床実習や課題レポート作成のための資料収集)
- e その他
- f 利用しない・利用したことがない

図 4 インターネットを何のために利用していますか？  
(複数選択可)

### 1. パソコン所有状況について

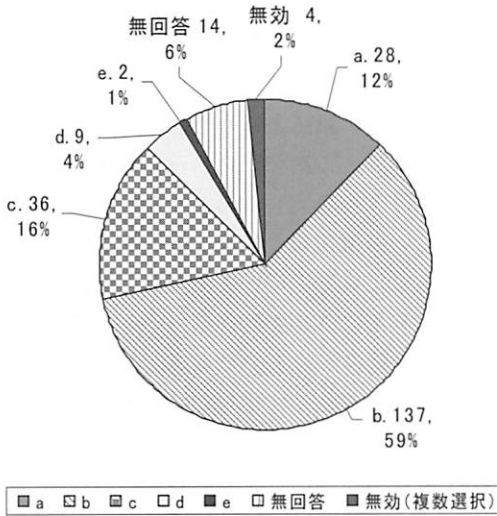
パソコンの所有について質問したところ(表 1)、230 名中自宅もしくは下宿にパソコンがあると答えた学生は 187 名いた。しかし、うち 36

名はパソコンはあるがインターネットはできない状況であった。パソコンを所持していない学生は 43 名(19%)いたが、151 名(65%)の学生は自宅・下宿でインターネットのできる環境にあった。

### 2. インターネットの利用について

インターネットを日常的にどのようなことに利用しているか質問したところ(図 4)、「d 勉強のため」を含む回答が 136 名と一番多く、次に「a 遊び、趣味」を含む回答で 118 名、3 番目が「b 買い物のため」が 85 名、4 番目が「c 生活情報を得るため」を含んだ回答で 79 名であった。その他の回答内容では「株取引など」と書かれているものがあつた。利用しない・利用したことがないと回答した学生は 23 名だった。

インターネットを利用して得られる情報に満足しているか質問したところ(図 5)「a いつも満足できる情報を得られる」を選択した学生は 28 名、「b 満足できる情報を時々得られる」とした学生が 137 名だった。「c あまり満足できる情報を得られない」を選択した学生は 36 名、

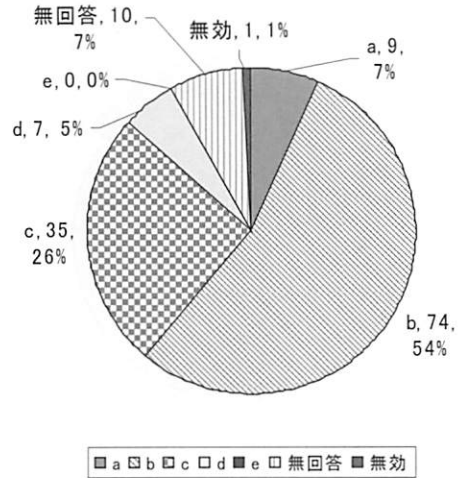


- a いつも満足できる情報を得られる
- b 満足できる情報を時々得られる
- c あまり満足できる情報を得られない
- d 満足できる情報が無いときが多い
- e 全く情報がなかった
- 無回答
- 無効(複数選択)

図5 インターネットで情報収集をしたとき(お店情報を得る、勉強などでさまざまな場面で)満足できる情報を得られますか?(1つだけ選んでください)

「d 満足できる情報が無いときが多い」を選択した学生は9名、「e 全く情報が得られない」を選択した学生が2名いた。a、bを合わせると165名(71%)で多くの学生が常にはないが満足した情報を得られていたようだった。

「インターネットを何のために利用していますか?」(図4)で「d 勉強のため」を選択した学生136名に勉強の場面での検索結果に対する満足度感について質問した(図6)。aを選択した学生が9名、bを選択した学生が74名、cの選択が35名、dの選択が7名だった。a、bを合わせると83名(61%)で勉強に限らないインターネット利用時に対する満足感と比べると、満足とした学生の割合が9%減少し、cを選択した学生の割合が16%から26%へ10%増加していた。勉強時のインターネット検索結果に対する満足感、それ以外の時より若干下がる結



- a いつも満足できる情報を得られる
- b 満足できる情報を時々得られる
- c あまり満足できる情報を得られない
- d 満足できる情報が無いときが多い
- e 全く情報がなかった
- 無回答
- 無効(複数選択)

図6 インターネットを何のために利用していますか?(複数選択可))で「d 勉強のため」を選んだ人はインターネット検索の結果について次から1つ選んでください

表2 臨地実習中のインターネット利用について次から1つを選んでください

選択項目	人数	割合 (%)
a よく実習のため利用した	25	11
b 時々利用した	70	30
c あまり利用しなかった	50	22
d 利用しなかった	79	35
無回答	5	2
無効(複数選択)	1	0

果となった。

臨床実習中のインターネット利用についての質問(表2)には「a よく実習のため利用した」が25名、「b 時々利用した」が70名、「c あまり利用しなかった」が50名、「d 利用しなかった」が79名だった。利用している学生はa、b、cを合わせると145名(63%)で半数を超えているが、選択項目ごとで見ると「利用しなかった」と回答した学生割合が35%で一番多かった。

二次データベースの利用について質問したと

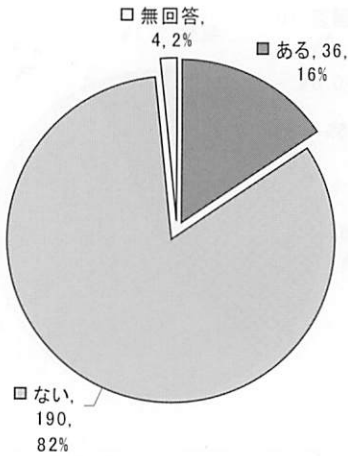


図7 インターネット上での二次データベース・雑誌記事論文検索(医学中央雑誌など)を利用したことがありますか?

ころ(図7)、「ある」と答えた学生が36名、「ない」と答えた学生が190名(84%)で学生による二次データベースの利用は少ない結果となった。

#### IV. 考察

看護学生は図書の利用は多いが、二次データベースを利用しての雑誌利用は少なかった。また、臨床実習中においてそれ程、積極的なインターネット利用が見られなかった。実際、看護専門学校図書室で勤務していた頃、学生は棚に配架された雑誌の背表紙や目次を見て、欲しい情報を探し出すといった利用がほとんどであった。文献検索の授業をした後で二次データベースの利用が大幅に増加するといった状況にはならず、文献を探すときは教員や司書、友人に相談するといった学生が多かった。

アンケート結果から看護学生はインターネットの利用率は高いが、二次データベースの検索を行っている学生は少ない。このような状況はA看護専門学校図書室だけでなく、看護系大学でも「看護関係情報を入手するために、文献データベースを利用しているものは多くなかった」とする調査もあり<sup>4)</sup>、A看護専門学校だけの状況ではないようである。

ある卒業生が「学生の時は教科書で十分対応できたけど、働き出したら教科書レベルでは無理」と言っていた。学生時代において必要な情報を得るとき、雑誌よりも図書で十分調べられることが多く、二次データベース利用の必要性が低いようにも考えられる。しかし、臨床現場では新しい医療情報や臨床上の疑問を解決する情報源として雑誌記事が求められ、二次データベースを利用する必要性が高い。A看護専門学校の場合、蔵書が約15,000冊あり資料内容も看護書、看護関連書に特化している状況を考えると、看護専門学校図書室に慣れていない看護師にとって看護関連書に特化していない病院図書室は使い難い図書室に思えるだろう。看護師にとって図書室は、学生時代は情報が入手しやすい場所であったのが、病院図書室では一転して情報入手ができない場所と認識されてしまう可能性がある。当院図書室の所蔵資料は図書より雑誌が多く、医中誌Webなど二次データベースを利用することで必要とする資料が見つかりやすくなっている。病院図書室業務として、所蔵資料の案内だけでなく資料の検索についての支援を行うことが重要だろう。資料・情報を必要とする看護師に対し、文献検索の支援を行うことで看護師にとって図書室利用の新たな方法を知ってもらえると考える。最近では、臨床現場での疑問や勉強会のために資料を探しにくる看護師や、学会発表や執筆活動のための資料・情報探しなどさまざまな事情により情報を求めて来室がある。求められる資料もさまざまで医中誌Webの検索に留まらないことも時々ある。すでに図書館が使えても困ったときの支援が必要<sup>4)</sup>といった意見があるように病院図書室は文献検索の支援だけでなく、情報に対しての積極的な相談サービスも必要であるように考えられる。

#### V. おわりに

病院図書室に勤務して3年目になる。勤務し始めた当初は、病院で働くことが初めてで戸惑

うことも多かったが、看護専門学校で学生からのさまざまな質問に対応してきた経験のおかげで看護師からの質問には戸惑わずに対応できた。また、文献検索の講義を任せていただいた経験は病院図書室でも大いに役立っている。看護学校で学ばせていただいたことを活かしこれから病院図書館サービスに結びつけていきたいと思う。看護専門学校で学生から「図書室に来れば何か情報が得られる」と言ってもらえたように、必要な情報が入手ができる身近な図書室として活用してもらえるように研鑽を積み、サービスの拡充を図りたいと考えている。

#### 謝 辞

最後になりましたがインターネット利用についてアンケートをさせていただきました A 看護専門学校の教員の方々、アンケートへの回答に

協力していただいた学生に感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

#### 参考文献

- 1) 米田奈穂, 武内八重子, 加藤晃一他: ビッグ・ディール後の ILL. 千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査. 大学図書館研究, 2006: 76: 74-81.
- 2) 日本看護協会編. 看護白書平成 18 年度版. 東京: 日本看護協会: 2008. p. 244.
- 3) 前田秀樹. 専門学校図書館はいま! (専門学校図書館シリーズ 2). 大阪: 本の旅社: 2004. p. 115-8.
- 4) 阿部信一, 武藤桃子: 看護師の情報ニーズと情報探索行動. 慈恵医大医学部看護学科平成 12 年度卒業生を対象にしたアンケート調査. 看護と情報, 2004: 11: 42-8.